

「高度経済成長期教育史」研究部会（第2回）

日時：2022年4月22日（金）13:00～15:00

場所：オンライン（Zoom 使用）

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員

山口和人・川上智子（野間教育研究所）

欠席：吉久知延所長・金沢千秋

内容：高度経済成長期教育史 各自研究テーマについて

（1）須田研究員「原子力の平和利用と教育」に関する先行研究

- ・前回示された「高度経済成長期教育史」のイメージの中で「企業社会の成立」「社員と従業員等を社員に統一、従業員の一体感が高まって企業への忠誠心アップ」「生活安定への道（から逸脱して非行の増加）」が目にとまった
- ・この時期、日本社会の在り方を方向づけた経済的な「豊かさ」、企業社会、それがバブル崩壊以後の平成不況や福島原発事故などで問い返された。その功罪を問う視点を得たいま、「豊かさを追うために形成され、あるいは後景に退き捨象された教育論議や実践を照らし出す視点をもって研究を進めていきたい
- ・先行研究紹介
吉見俊哉『夢の原子力』（ちくま新書 2012年）
他 CiNii から論文・記事等

（2）鳥居研究員「地域社会の変容とことばの教育」

- ・1950年代から時代が変わっても、人々の生活文化と教育とのかかわり・政策史と生活史のあいだ、という観点から研究を続けたい
- ・ことばなおし運動：60年代に各地の学校で展開されたことばを良くする標準語教育運動
- ・橋本典尚の諸論文（ネサヨ運動などの）積極的評価への疑問
- ・なぜことばなおしのような運動や実践が戦後の一時期に生成し終焉したのか
ことばなおし実践校：鎌倉市立腰越小学校が発祥とされる。銚子市立明神小学校（千葉）・余目町立常万小学校（山形）・大阪市立諏訪小学校（大阪）・名古屋市立旭丘小学校（愛知）など80校
- ・各地の学校がどのようにつながったのか、環境の違いについて
- ・当面の作業：
腰越小学校やその姉妹校の銚子市立明神小学校の事例検討
『ことばなおしとPTA』（1961年 新映画実業株式会社）映画フィルム探索

・次回研究会 5月20日（金）13:00～ 大島・西山研究員

・次々回研究会 7月1日（金）13:00～ 米田・須田研究員 対面予定